

青森・津軽氏城跡・弘前城跡

1 所在地 一 青森県弘前市大字下白銀町

二 青森県弘前市大字西茂森二丁目

2 調査期間 一 二〇〇一年(平13)六月～十二月

二 二〇〇二年九月～一〇月

3 発掘機関 弘前市教育委員会

4 調査担当者 一 岡本康嗣、二 岩井浩介

5 遺跡の種類 一 城館跡、二 寺院跡・集落跡

6 遺跡の年代 縄文時代、平安時代、近世、近代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(弘前)

史跡津軽氏城跡は弘前城跡・堀越城跡・種里城跡よりなる国指定史跡である。弘前城跡はさらに弘前城跡・長勝寺構・新寺構よりなる。弘前城は津軽平野南西部にあり、南より延びる台地の先端に立地する。

木簡は、弘前城跡の弘前

城北の郭と、長勝寺構長勝寺の二カ所から出土した。弘前城は、慶長一五年(一六一〇)に着工され、翌年にはおおむね完成をみたようであり、それ以前の本拠地である堀越から家臣・寺院などの移転が行なわれている。その際、城下には諸社寺が計画的に配置されることとなり、弘前城の南西台地上には津軽領内より曹洞宗寺院三三カ寺が集められ、長勝寺を僧祿として長勝寺構が形成された。

一 弘前城北の郭

弘前城北の郭は、本丸から内堀を挟んで北側に位置している。北の郭には、築城当初から寛文一一年(一六七二)頃までは初代藩主為信の正室仙桃院の御殿、寛文二二年から宝永元年(一七〇四)までは四代藩主信政の生母久祥院の御殿や土蔵など、宝永二年から廃藩までは宝蔵や糶蔵が存在しており、また、郭南東隅の土塁と堀に囲まれた一角には、太閤秀吉の木造座像を御神体として安置した館神が存在していた。

今回の調査は、史跡公園整備の一環として、館神部分と郭北側の約三七〇〇㎡で実施された。

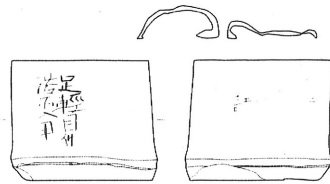
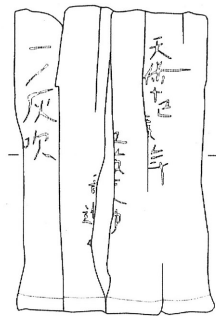
木簡は、北の郭北側の調査区の西寄りに位置する木材廃棄土坑から出土した。土坑は、南端が調査区外にのびるため本来の形は明らかでないが、現状では不整形を呈し、最大径約7m、最も深い北側部分で約一・七mの深さを有する。覆土の中層から下層にかけて、榎茸き屋根の使用材をはじめとする加工材が多量に出土しており、

それらの材に混じって、下駄、箸、柄杓などの木製品や穀殻、一九世紀中葉までの陶磁器が出土している。伴出遺物には、「御日記」と墨書の見られる火入れ、墨書のあるかわらけ、「足軽目付 詰所 入用」「糊」「天保十己亥年 一ノ灰吹 工藤□助」と刻書の見られる竹製の灰吹なども出土している。木簡は八点出土したが、そのうちの二点について報告する。

二 長勝寺構

長勝寺は長勝寺構の形成とともに、その西端に東面して建立されている。伽藍配置は、東面する本堂を中心として、その正面に三門、本堂に向かって右(北)側に庫裏、左(南)側に禅堂(現着龍窟)を配し、それらを回廊がつないでいたが、現在は失われている。調査は位牌堂及び住宅の改築に伴うもので、二〇〇一年度には庫裏の東側約一七二・五㎡、二〇〇二年度には庫裏の北側約二四四・七㎡で実施された。

木簡は二〇〇二年度調査区の井戸SK二九より出土した。井戸の形状は一辺二・六mの方形を呈し、深さは二・〇m付近まで確認したがそれ以上ある。井戸側は確認できていないが、四隅に上屋の柱跡が確認されている。覆土下位から、土壁材や加工材とともに、箸・蓋・下駄などの木製品、高台見込みに「叶」と朱書きの見られる漆器碗二点、一八世紀後半の肥前陶磁器などが出土した。木簡は二点出土したが、そのうちの一点について報告する。



竹製の灰吹

8 木簡の釈文・内容

一 弘前城北の郭

(1) 「浪之間御次梅之間御次 仕切廊下風窓御鍵」

186×39×9 061

(2) 「福寿院合掌 院寿丸」

207×49×35 011

(1)にある「浪之間御次梅之間御次」は、幕末頃のものと考えられる「本丸建物之図」(弘前市立図書館蔵)における「浪ノ間・次ノ間」「梅ノ間・次ノ間」と考えられることから、本資料は本丸御殿内の窓の鍵札と考えられる。(2)は粗く調整された直方体を呈する加工材に、粗放な筆致で墨書されている。

二 長勝寺構

(1) 「御

□□
長□□

「□□

西□何□
何□東□

無□來□
奉□

「八」
刻書

十□方□
悟□

迷□故□
三□

「八」
刻書

寂□為□
樂□

寂□寂□
々□

「八」
刻書

價□生□
法□

□是□
生□

無□常□

「八」
刻書

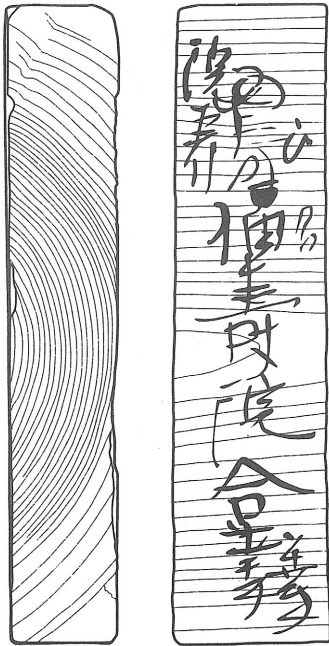
205×156×10 061

(1)は表面端部に丁寧な面取りの見られる蓋である。表面にあるのは上書きであろうか。裏面墨書の前半部分は、大乘經典『大般涅槃經』に説く諸行無常偈(雪山偈)とよばれる一文と思われる。所々に見られる繰り返しは習書によるものか。裏面の大部分は墨で塗りつぶされている。なお、裏面には、六カ所の釘跡と、「二」「八」「六」の刻書もみられる。

9 関係文献

- 弘前市教育委員会『史跡津軽氏城跡(弘前城跡) 弘前城北の郭発掘調査概報Ⅲ』(二〇〇二年)
- 同『史跡津軽氏城跡(弘前城跡) 弘前城北の郭発掘調査報告書』(二〇〇三年)
- 同『史跡津軽氏城跡(弘前城跡) 長勝寺構長勝寺発掘調査報告書』(二〇〇三年)

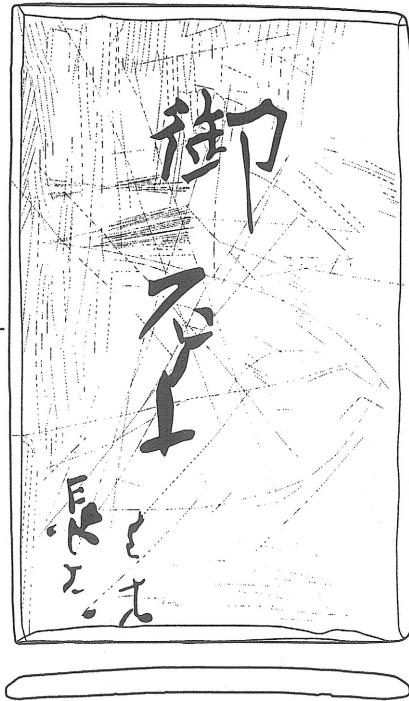
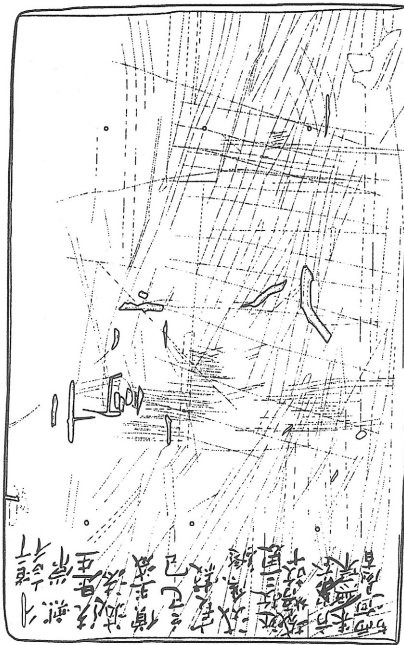
(岩井浩介)



—(2)



—(1)



二(1)